# 学内ニュース

## 名古屋工業大学の環境対策

近年、地球環境に関する問題は世界的な問題としてクローズアップされてきている。本学においても様々な環境に関する取り組みを行ってきていたが、2006年に環境配慮促進法における特定事業者に指定されたのを機に、これまでの取り組みを「環境報告書」にまとめ、毎年公表することとした。ここでは、その一端を紹介し、本学における環境への取り組みを紹介したい。

### 1. 基本理念と基本方針

本学における環境対策の「基本理念」は、教育理念である、「ひとづくり」、「ものづくり」、「未来づくり」に基づき、環境配慮を率先する教育研究を責務と認識し、すべての環境保全活動を通じて社会に貢献することを掲げている。これをもとに、以下の「基本方針」が定められている。

- (1)持続的に発展可能な循環型社会の形成に寄与する教育研究を推進する。
- (2)環境教育と研究の持続的な充実を図る。
- (3)地球環境問題の解決に貢献できる工学を基軸とした人材を育成する。

#### 名古屋工業大学 准教授 青木 睦(E4)

- (4)地域社会との連携による教育研究活動に積極的に参画する。
- (5)環境関連法規、条例、協定ならびに自主基準の要求事項を順守する。
- (6)省資源、省エネルギー、グリーン購入、廃棄 物減量等を図る。
- (7)この基本方針を達成するために、環境目的及び目標を設定し、教職員,学生ならびに名古屋工業大学に関わる事業者と協力して達成を図る。
- (8)環境対策委員会を設置し、環境マネジメントシステムを確立するとともに、このシステムを定期的に見直し、継続的な改善を図る。

#### 2. 本学のエネルギー使用状況

本学における総エネルギー投入量を年度別に熱量に換算したグラフを図1に示す。2004年度の対前年比2.4%という増加から、3年間(2004~06年度)は微減の傾向を示していたが、2007年度は前年比4.6%の増加という結果となった。2008年度前年度比2.6%減となったものの、過去数年間に比べれば高い水準であっ

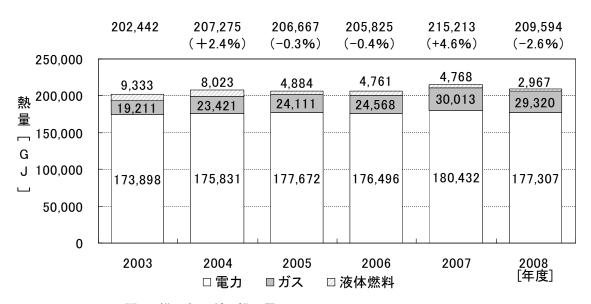


図1. 総エネルギー投入量 ※()内の数字は対前年度比を表す

た。この要因として、建物の耐震改修が順次行われ、これに併せて、部屋の使用方法の見直しがなされ、空間利用率が向上したことが挙げられる。また、情報基盤センターや学生センターなどが順次整備されたことや活発な研究活動により設備が増加したことも要因の一つとして上げられる。エネルギー源ごとに投入量を見ると、液体燃料(98%が重油)の使用量が、ほぼ半減したのに対して、ガスの使用量は継続して増加していることが分かる。これは、耐震改修に併せてボイラによる暖房方式からガスヒートポンプ式空調機を導入したことが主な要因である。

これに対して、トイレなどに人感センサを設置、デマンド監視による空調制御の実施、空調機の更新など、ハード面での取り組み、各種エネルギーデータのホームページでの公開や省エネルギーキャンペーンの実施などソフト面での取り組みなど様々な取り組みを行っている。また、新エネルギーとして太陽光発電システムも積極的に導入しており(図2)、今年度、さらに38kW増設し、合計65kWとなる計画である。



図2. 図書館の屋上に設置された太陽電池パネル

#### 3. その他の環境への取り組み

本学では、廃棄物の排出量を削減するため、 リサイクルを推進している。具体的には、分別 回収できるように学内のゴミ箱を整備し、プラ スチックの再資源化などに取り組んでいる。

また、「キャンパスクリーン作戦」として、 教職員および学生が協力して本学キャンパスと 周辺地域の清掃活動を毎年行っている。

こうした取り組みが評価され、2008年3月に

は「名古屋市エコ事業所」として認定されることができた(図3)。さらに、プラスチックゴミのRPF(固形燃料)化、環境報告書の電子データ化、ペーパーレス会議の推進などで2007年度に前年比40トン、10%のごみを減量しており、この環境配慮活動が評価され、2009年2月に「第2回名古屋市エコ事業所特別賞」を受賞することができた。

この他、環境に関する授業や研究などが多く 行われているが、詳しくは、末尾のURLに示す 環境報告書を参照されたい。



図3. 名古屋市エコ事業所認定証

#### 4. おわりに

ここでは、本学における環境に対する取り組みの一端を紹介した。しかし、すでに述べたように、研究活動の活発化を図りながら、エネルギー使用量や温暖化ガス排出量を削減するための有効な対策を打てないでいるのも現状である。しかし、工科系単科大学として、コンパクトにまとめられたキャンパスは、全学が一体となって取り組みやすい環境にある。

今後、さらに環境への取り組みを推進し、モデル事業所として社会に認知されようにしてき たいと考えている。

### 名工大、インドネシアに同窓会を設立

名古屋工業大学では、卒業生や留学経験者に対するさまざまな支援を強化するため、海外同窓会の設立に力を入れている。この度、平成22年2月12日(金)にインドネシア(ジャカルタ)に海外同窓会を設立した。これは韓国(ソウル)と中国(上海)に続く3カ国目の海外同窓会である。

第一回名古屋工業大学インドネシア同窓会は、ジャカルタのHotel Nikko Jakartaにおいて、インドネシア人元留学生14名と名古屋工業大学松井信行学長、山本幸司国際交流センター長らが参加して開かれた。また来賓として、在インドネシア日本大使館より塩尻孝二郎大使を招いて祝辞を頂き、終始和やかな雰囲気のうちに同窓会の発会が祝われた。

同窓会では、初めに同窓生を代表して、インドネシア人の元日本留学生協会(プルサダ)で事務局長も務めているジャン・ロノ氏より、今後の同窓会運営に関する抱負が述べられた後、松井学長より同窓会設立の趣旨や本学の現状について説明があった。その後、同窓生全員が日本語で自己紹介。学生時代の研究内容や近況を報告した。また名古屋工業大学の最近の様子を収録したDVDが上映され、大学時代の思い出話に花を咲かせていた。

同窓会の後半には名工大インドネシア同窓会規約の承認、初代同窓会役員の選出を行い、2003年に名古屋工業大学の大学院博士後期課程を修了したマンティ・フィルダウシ氏(科学技術応用評価庁、BPPT)が初代会長に就任した。同氏は「同窓生はインドネシアの科学技術の先端を担う忙しい人が多いが、年に1回は総会を開き、仕事や学術に関する情報交換を深めたい」と今後の同窓会の発展に意欲を見せていた。
(事務局)



集合写真



塩尻在インドネシア日本国大使



DVDによる名工大紹介

### ボート部 新艇庫完成

名古屋工業大学ボート部 主務 都市社会工学科4年 古泉祐輝

2010年3月27日にボート部艇庫兼合宿所の竣工式並びに完成祝賀会が開催されました。この日を迎えられたのも白艇会(大学ボート部OB会)会員の皆様、そして大学の多大なるお力添えを無くしては決してありえませんでした。

艇庫再建の道はとても長く、先の見えないものでした。2008年12月に旧艇庫の耐震強度不足という法律上の問題が発生し、艇庫・合宿所が使用禁止となりました。当時は大学の即座の判断が難しく、我が部にとっては部の存続すら危惧される危機的な状況でした。そのような状況の中、当時4年小池亮介(2009年卒業)と白艇会の方々を始めとし、我が部の総力をもってこの危機的状況を打開しようと、艇庫再建の事業が発足いたしました。

この熱意を大学へ汲み取っていただくため目標を10,000,000円と立て、艇庫再建資金集めを行いました。資金集めでは、白艇会の方々の熱烈な思いを感じ、1年間で目標額を大きく上回る14,000,000円を超える御寄附をいただきました。これが一つの大きな力となり、大学にも艇庫再建の判断を下していただきました。

その後も大学には部屋のレイアウトや物品選択等、様々な形でご協力いただき部員が毎日のように学生課へお伺いしました。時には無理なお願いをすることもあり大変ご迷惑をお掛けしました。

そして待ちに待った竣工式並びに完成祝賀会では高橋実名古屋工業大学長、篠田陽史名古屋工業会理事長を始めとする多くの方々にご参加いただき盛大に我が部の艇庫完成を祝うことができました。会では皆様方の喜びに溢れた空間となり、話が絶えることはなく3時間という時間はあっという間に過ぎてしまいました。



2010年3月 ボート部新艇庫

このような素晴らしい艇庫で練習できることは私達部員にとってはこの上ない喜びであり、また誇りに思います。この新艇庫で練習できる喜びを日々感じながら、精一杯ボートを漕ぎ、名古屋工業大学の名を全国に轟かせていきたいと思います。

筆末となりましたが、このボート部新艇庫再 建にご協力いただいた方々には御礼が尽きるこ とはございません。本当にありがとうございま した。

今後ともボート部をよろしくお願いいたします。



2010年3月27日 艇庫完成祝賀会にて

### 平成21年度学生表彰を実施

名古屋工業大学は、2月16日に学生生活の充実と活性化を図ることを目的として、名古屋工業大学学生等の表彰に関する要項に基づき、学生個人又は大学が公認する学生団体に対し、学長表彰及び副学長表彰を行なった。

学長表彰は、「学術活動部門」の学会発表、論文発表を活発に行なうなど特に顕著な実績を上げ、学生研究奨励に該当する者10名、「名誉貢献部門」の人命救助、ボランティア活動等において大学の名誉を著しく高め、大学に大きく貢献した者1名及び「課外活動部門」の全国大会で入賞した学生等5件に、また副学長表彰は「学術活動部門」の学会発表、論文発表を活発に行なうなど特に実績を上げ、学生研究奨励に該当する者40名及び「課外活動部門」の東海地区大会で二位以上に入賞した学生等10件が表彰された。

表彰者は次のとおり

#### 受賞者

#### ◎学長表彰

#### 【学術活動部門】(10名)

所 属	課程	学年	氏 名
物質工学専攻	博士後期	3年	岩田 知之 小川 真一
極处工學事本	博士前期	2年	鈴江 隆晃
機能工学専攻	博士後期	3年	Hassan Ashraf Mohamed
<b>桂起工</b>	博士後期	2年	王 チョン
情報工学専攻		3年	熊崎 耕太
社会工学専攻	博士後期	2年	京川 裕之
未来材料創成 工学専攻	博士後期	2年	則竹 瞬
創成シミュレー ション工学専攻	博士後期	2年	橋本 佳
産業戦略工学 専攻	博士前期	2年	藤田 桂英



#### 【名誉貢献部門】(1名)

	団体名	区分	氏	名		大	会	等	名		
ſ		個人	宮本	裕貴	ヨーヨー世界大会	3 A 部門	争り	位			

#### 【課外活動部門】(5件)

団体名	区分	氏 名	大 会 等 名
弓道部	個人	大久保和平	第59回三十三間堂大的全国大会 成人男子の部 第2位
	個人	清水 俊介	第13回熱田の森ロボット競技会 歩行ロボット徒競争部門 多足型の部 特別賞
ロボコン工房	個人	川上 文啓	第21回知能ロボットコンテスト チャレンジコース 準優勝
* · ·	個人	人 落合 佑哉	第21回知能ロボットコンテスト チャレンジコース 準優勝
	個八   冷1	谷口 阳以	第24回全日本学生マイクロマウス大会 ロボトレース競技 特別賞
	団体		第9回レスキューロボットコンテスト 計測自動制御学会賞





### ◎副学長表彰

### 【学術活動部門】(40名)

所 属	課程	学年		氏	名	
[7] 内			<del>***</del> ***			
物質工学専攻	博士前期	2年	安藤 幸治	村田章太郎	杉浦 啓太	王 心心
初其工于守久	博士後期	3年	山本 剛嗣	中根 大輔	Das Banibrata	
	博士前期	1年	宮本 裕貴			
機能工学専攻		0.45	仲村 和聡	井本 琢磨	清水 智詞	中島 佑基
		2年	大澤 晃寛	青木 幸司		
	博士前期	2年	大澤 淳司	佐野 博之	永井 稔大	石田 稔
情報工学専攻	博士後期	1年	趙章植	山西 良典		
		3年	大浦圭一郎	MAHMOUD A	BDELNABY SAY	ED ABDALLH
	博士前期	2年	湯浅 知英			
社会工学専攻	博士後期	1年	加藤 由香			
11云上子导以		2年	Ibtinen Sediri			
		3年	陳 英芝	濱田 晋一		
産業戦略工学専攻	博士前期	2年	小林 真雄			
	博士前期	2年	河合 洋幸	原 範之	山下 誠司	MOHD ZAMRI MOHD YUSOP
未来材料創成工学専攻	博士後期	1年	松本 純			
		2年	加藤 丈明			
創成シミュレーション工学専攻	博士前期	1年	立松 綾乃			
		2年	細谷 和輝	渡邊 雄太		
	博士後期	2年	石川 勇太	烏山 昌幸		
都市循環システム工学専攻	博士後期	3年	宮脇 亜子			

### 【課外活動部門】(10件)

団体名	区分	氏	名	大 会 等 名	
	個人	金田	純弥	第58回東海地区国立大学体育大会陸上競技 三段跳及び走幅跳 第1位	
陸上競技部	個人	高羽	克尚	第58回東海地区国立大学体育大会陸上競技 走り高跳び 第1位	
	個人	中川	純一	第36回東海学生陸上競技秋季選手権大会 3000m障害 第1位	
	個人	上田	泰輔	第36回東海学生陸上競技秋季選手権大会 3000m障害 第2位	
水泳部	個人	小野	亜美	第58回東海地区国立大学体育大会水泳競技 女子400m自由形 優勝	
硬式テニス部	団体			第58回東海地区国立大学体育大会硬式テニス 男子 準優勝	
弓道部	個人	家田	未来	第42回東海学生弓道男子百射会 優勝	
				第41回中部学生ボート選手権大会 男子エイト 第1位	
ボート部	団体			第38回中部学生新人選手権競漕大会 男子舵手付フォア 第1位	
				第38回中部学生新人選手権競漕大会 男子エイト 第1位	
	A FEE	森	策 昭人 <u>佐祖</u> 园中郊兴史兴 12曜五佐上入 田	第41回中部学生ボート選手権大会 男子ダブルスカル 第2位	
	個人	瓜田	有吾	毎41回甲叩子生小一下医士惟八云   男丁タノルスカル 第2世	
ロボコン工房	工房 個人	、工言 一個 、		成儀	第24回マイクロマウス中部地区初級者大会 ロボトレース競技 準優勝
		ュ かコ / 上房   1個八   <u> </u>	水野	礼人	第24回マイクロマウス中部地区初級者大会 ロボトレース競技 準優勝



### 平成21年度名古屋工業会 課外活動活性化経費授与式

平成21年度の名古屋工業会課外活動活性化経費授与式が平成22年2月26日(金)に行なわれ、篠田理事長から挨拶の後以下の6つのクラブの代表者に支援金が授与された。

授与クラブ:弓道部・ボート部・S-EV (ソーラカー部)・ロボコン工房・写真研究部・新聞部



### 組名古屋工業会会員からの 絵画贈呈式

本会会員の杉山道生氏(K26)より母校名古屋工業大学に絵画を寄付したい旨の申し入れがあり、去る12月16日(水)に贈呈式が行われた。贈呈式には松井学長はじめ、大学関係者列席のうえ、19号館会議室で執り行われたが、第32回の日府展に出展された2メートルを超す「濤(なみ)」と題された力強い作品に感慨一入の様子であった。

この作品は、杉山道生氏の長兄にあたる故杉山璋夫画伯による1985年の作品で、500号(218×333cm)の大作である。同画伯は川端竜子に師事され、青龍社・社子を経て(社)日本画府専務理事・審査員、創日会設立、同会運営委員長・会長を歴任、平成10年(1998)には2回目の紺綬褒章を受章されている。なお、寄贈者の杉山道生氏は、名古屋工業大学・金属工学科の前身である愛知県立工業専門学校を昭和26年(第5回)に卒業され、(株日本へイズを創業、同社会長を引退されたのちも、本会および名晶会の発展に向け種々ご指導を賜っている。寄贈された絵画は、19号館1階東奥の会議室東側壁面いっぱいに飾られていますので、機会がありましたら、覗いてみて下さい。



贈呈式において松井学長より感謝状を受け取る杉山氏



「濤」が飾られた名古屋工業大学19号館の会議室

#### 編集後記

新年度も始まりキャンパス内も学生の姿で 賑わっております。今回は高橋新学長のインタ ビューが掲載されています。そこにあるように本 学も大学法人としての第1期の中期計画も終え、 第2期がスタートしました(大学のホームページ に公開中)。本学も過去6年の第1期ではいろい ろな面で変革してきましたが、更に新しい姿への 変革が続いていくことと思います。本誌もその様 子をお知らせする機会も多くなることと思いま す。我々の任期も終えて次の編集担当者に引き継 ぐこととなりましたが、今後とも「ごきそ」をご愛

読を願っております。

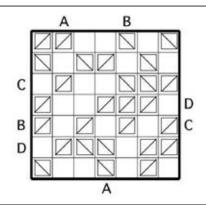
(Es48北村正)

「ごきそ」はこの号で現在の広報委員会による編集を終え、次号から新しい委員長・幹事のもとで編集されます。この2年間のご協力に感謝申し上げます。多くの記事を投稿いただきました会員諸氏、学内の事情を紹介いただいた教職員の皆様、写真を多数提供いただいた黒柳先生、パズルの稲葉様、わがままな編集につきあっていただきました事務局・広報委員、大変ありがとうございました。 ([62 犬塚信博)

## ごきそでパズル

今回のパズルは「L分割」です。盤面を4マスのL字型ブロックに分割してください。

(前回の答え)



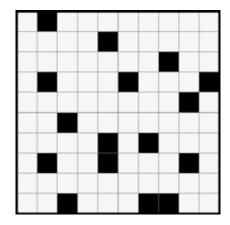
稲葉氏のパズル本「パズル脳」(オデッセウス出版)が出版されました

(例題)

(答え)



問題



解答は次号に掲載します。

パズル:稲葉直貴(EJ<sup>(3)</sup>)作

### 東京支部「東京ごきそサロン」開催のご案内

第46回「東京ごきそサロン」を次のとおり開催致します。会員各位のご参加をお待ちしています。

開催日時:平成22年7月27日(火) 18時30分~20時30分

開催場所:八重洲倶楽部(東京駅八重洲口地下) 電話:03-3275-0801 テーマ:「Webベース教育学習システムCollabTestなどについて」

講 師: 勅使河原 可海 (てしがわら よしみ) 氏 (F40)

創価大学工学部教授、東工大大学院博士課程修了。NEC C&C通信業システム事業 部技師長、技術企画部技師長、技術戦略室室長代理を経て、1995年より現職。

講演概要: 勅使河原研究室の研究の一環として開発しているCollabTestが紹介されます。

CollabTestとは、学生が問題を作り、学生間でレビューをして、教師が確認テストとして出題するWebベースの学習支援システムであり、現在創価大学全学的に利用されています。また、会議の議事録を作成するCollabMinutes、およびプレゼンのスライドに付箋を貼るような形で、学生が容易に質問やコメントができるCollabStickyなどの研究教育支援システムについても紹介していただけます。

会 費:1.000円(懇親食事代)

申込先:食事の準備の都合上、7月20日(火)までに下記の各科常任幹事宛、電話又は FAX又はe-mailでお申し込み下さい。

各科常任幹事は出席者名簿を7月23日(金)までに須賀まで

E-mail (hsuga@jcom.home.ne.jp.) あるいはFAX (048-833-1376) によりご連絡下さい。

C原田: Tel 03-3535-1579

e-mail: tatsuji.harada@toda.co.jp

A小松: Tel 03-5461-1695 Fax 03-5769-1915

e-mail: komatsu.nobuharu@obayashi.co.jp M:直接ごきそサロン担当 K科須賀 (連

絡先は上記)までご連絡ください。

E加藤: Tel/Fax 029-273-5506

e-mail: kato.katsuhide@sound.ocn.ne.jp

D 三山: Tel 03-3972-4909 Fax 03-3972-4583

e-mail: miyama@asahibond.co.jp

W飯田: Tel/Fax 03-3688-1961

e-mail: imas-hi@cameo.plala.or.jp

Y日沖: Tel 03-3347-7512

Fax 03-3347-7548

e-mail: hioki3@y6.dion.ne.jp K須賀:Te1/Fax 048-833-1376

IX 次頁 · 161/ 17dX 040-000-1070

e-mail: hsuga@jcom.home.ne.jp

F嶋 : Tel 0466-83-9490 Fax 0466-82-9239

e-mail: shima.shohei@ebara.com

B濱野: Tel 042-795-0641

e-mail: k-hamano@h01.itscom.net

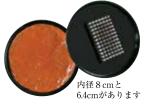
Es平手:Te1/Fax 045-321-7626 e-mail: hirate@nifty.com

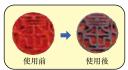
承北野: Tel/Fax 03-3467-5739

### ―いつも綺麗な捺印を―

印鑑や篆刻の印面に朱肉や紙粉が詰まり、捺印しても印影 が綺麗に写らない場合があります。

そんな時、この "<del>朱おとし</del>" をご使用ください。 印面を傷付けず汚れを取り、綺麗に捺印することができます。 ゴム印のゴミでも綺麗に落とせます。





名古屋市西区名駅二丁目3番17号

### 名豐工業株式会社

代表取締役 原 田 直 輝 (D41) 電話&FAX 052-541-6919

### 企画から製本まで承ります。

企画・デザインから製本まで トータルサポートでお値打ち!!

プ·電子組版時代から築き上げら



名古屋市昭和区東畑町一丁 TEL、(052)741-7701 FAX、(052)741-7703



### 特許業務法人 知国際特許事務所

EICHI Patent & Trademark Corp.

所長 弁理士 岩 﨑 孝 治



東京本部 〒112-0011 東京都文京区千石4-45-13 TEL: 03-3946-0531代 FAX: 03-3946-4340

神奈川支部 〒224-0006 神奈川県横浜市都筑区荏田東1-23-2 TEL: 045-532-3827 FAX: 045-532-3828

北海道支部 〒078-8802 北海道旭川市緑が丘東二条4-11-12 TEL: 0166-65-2080 FAX: 0166-65-2080

浜松支部 〒430-0806 静岡県浜松市中区木戸町5-11 TEL: 053-461-5662 FAX: 053-460-6027

http://www.eichi-patent.jp

### (株) ブライダルは 名古屋工業大学会員の皆様の 「結婚 | を応援します。

32年の実績 (一橋大コースetc)

森

鵜飼



左のQRコードにて携帯サイトに

聡

裕之 (F52)

ブライダルコース ¥220,500▶¥189,000 etc. エクセレントコース ¥378,000 ▶¥330,750 etc.

●ミドル・シニアの方々のプランにも特典がございます

価格は登録料・会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です

●成婚率は業界トップクラス。

●入会審査有り ●都庁・官公庁・有名大学などでメディア展開

簡単にアクセスできます。 (一部対応しない機種がございます。) ●お客様満足度NO.1のお世話を目指し少子化 問題にも貢献。

株式会社 ブライダル figuresh は 0120-415-412 http://www.bridal-vip.co.jp

名古屋本社 〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F Network 東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

## 社団法人名古屋工業会会誌 「ごきそ」に広告を掲載しませんか!

「ごきそ」は15.000部を隔月発行し、 会員・広告主・関係官庁・各学会・大 学・図書館等に頒布されています。 詳細は名古屋工業会のホームページ

http://www.nagoya-kogyokai.jp/ でご確認ください。

### 広報委員会

北村 正 (Es48) 員 長

委員 [○:幹事]

紘 (F院44)

○犬塚 信博( 162) 横山 淳一 (Fb⑥)

○中村 剛士 (EJ⑤) 山口 啓(C49)

字佐美智伯(SU6) 栄三 平井 秀島 稔雄 (M⑤)

北川 啓介 (A®) 廣瀬 光利 (E50)

民雄(W45) 糸魚川文広(M61) 森川

若尾 尚史(D⑥) 小坂 卓 (EI⑥)

山本 勝宏 (ZW⑥) 道家 清正 (Y30) 本多 沢雄 (ZY6) 飯田 雅(K46)

杉江

会誌「ごきそ」のバックナンバーは、名古屋工業会のホームページ http://www.nagoya-kogyokai.jp/でご覧いただけます。